

Press Release

2023年6月30日
株式会社コンカー**コンカー、電子インボイスを実現する、
請求書の国際標準規格「Peppol(ペポル)」への対応を発表**
～請求書受領から承認、管理まで完全デジタル化を実現～

出張・経費管理クラウドのリーダーである株式会社コンカー（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：三村 真宗、以下 コンカー）は、請求書管理サービス「Concur® Invoice」の国際標準規格「Peppol(ペポル)」への対応を発表します。

2023年10月から開始のインボイス制度や2024年1月から義務化される電子取引書類の電子データ保存への対応が目前に迫り、多くの企業が請求書管理業務のシステム化を進めています。しかし、単純な既存業務のデジタル移行では、紙を中心としたアナログ処理、非効率な運用の残存という課題が残ります。

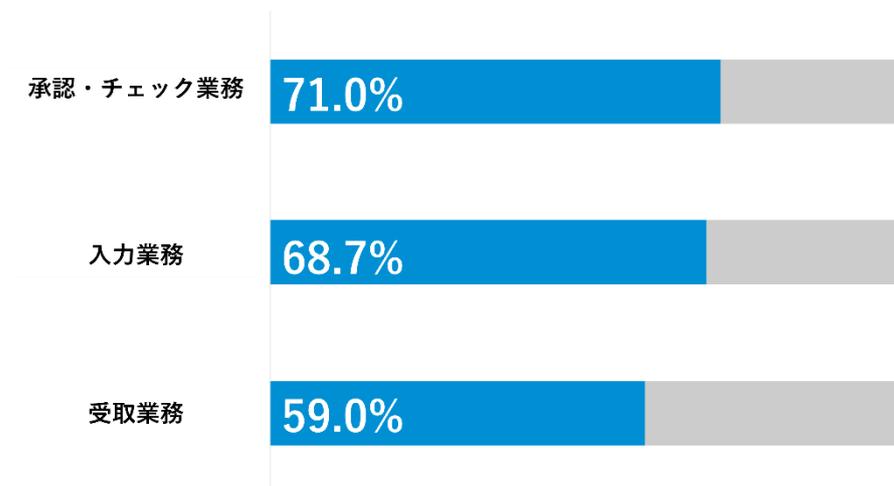
コンカーは2023年5月に請求書業務に関わるビジネスパーソン600名に対して「インボイス制度・電子帳簿保存法についての調査」を実施しました。請求書業務については、承認・チェック、入力、受け取り業務のそれぞれにおいて、半数以上の回答者が負担を感じていると回答しています。

<インボイス制度・電子帳簿保存法対応についての調査：2023年5月コンカー調べより>

※本調査では小数点第2位で四捨五入しているため、足し上げても合計数値が100%とならない場合がございます

請求書業務は負担だと思いますか？

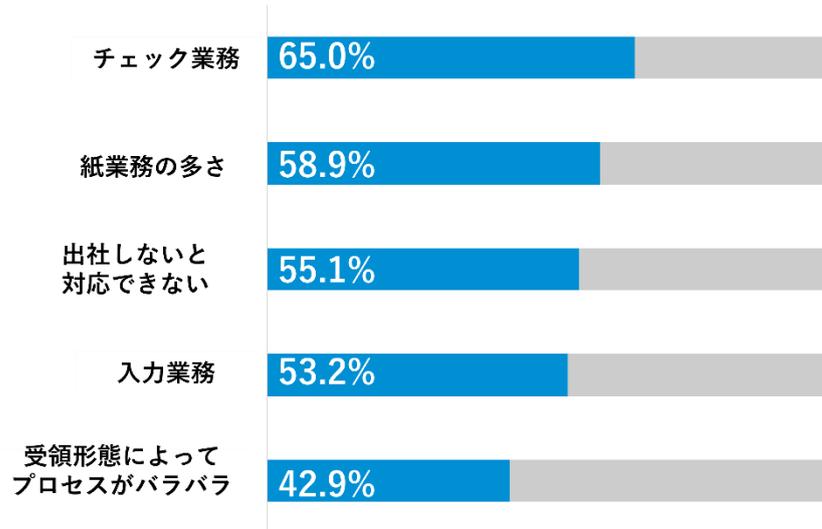
N=600※複数回答可



そして、請求書業務が負担と回答した人で、特に負担となっている業務を掘り下げると、上位5つはチェック業務や出社必須の対応等、紙主体の業務が理由となっていることがわかりました。そして、請求書の受領形態によってプロセスがバラバラであるという理由も判明しています。

特に負担だと思える業務は何ですか？

N=457※複数回答可

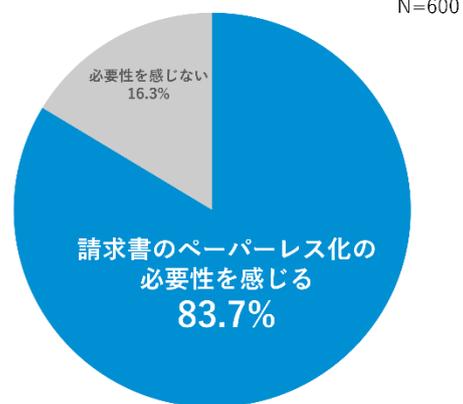
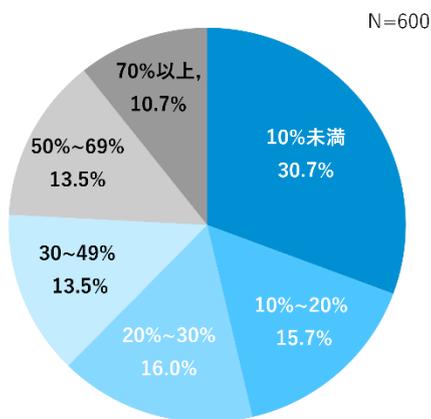


また、請求書のデジタル化の比率については現状 50%以下の回答が約 8 割を占め、一部のみデジタル化している状況です。そして、80%以上の回答者が請求書のペーパーレス化の必要性を感じており、紙主体の業務から脱却し業務効率化を実現することが強く求められています。

請求書のデジタル化の割合とペーパーレス化の必要性について教えてください

受領する請求書のデジタル化の比率について

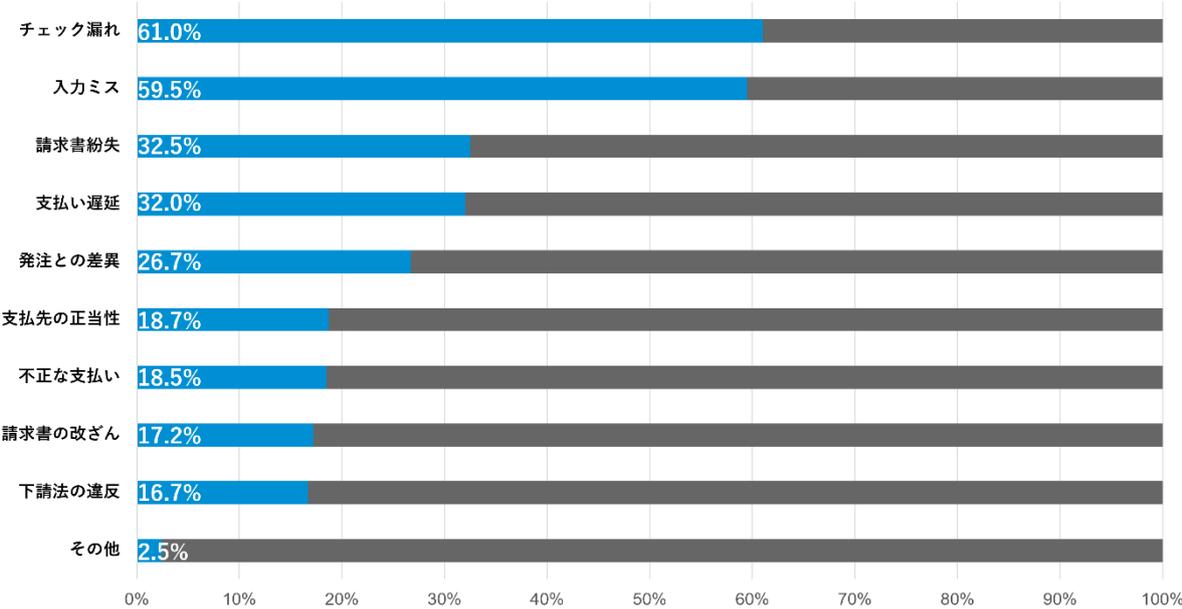
請求書のペーパーレス化の必要性を感じますか？



ガバナンスについても複数の課題があることがわかりました。チェック漏れや、入力ミスといった、紙や目録のアナログ処理が原因とみられる課題が最も多く、支払先の正当性や不正な支払い、請求書の改ざんなどの不正もそれぞれ約 20% 弱の回答がありました。特に意図的な不正については、30%以上の職場でこれまでに発生しており、そのうち 2.2%の職場では頻発しているという結果となりました。また約 40%の職場では現在も意図的な不正が発生している可能性があり、早急に対策する必要があります。

請求書業務におけるガバナンスの課題は何ですか？

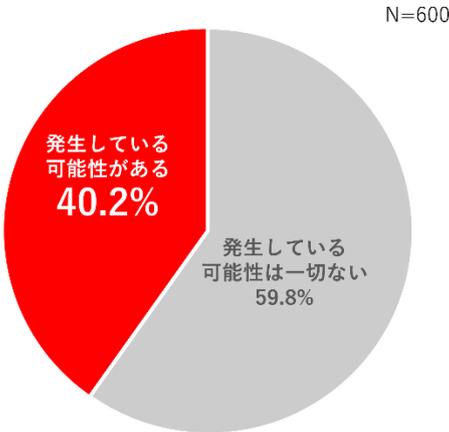
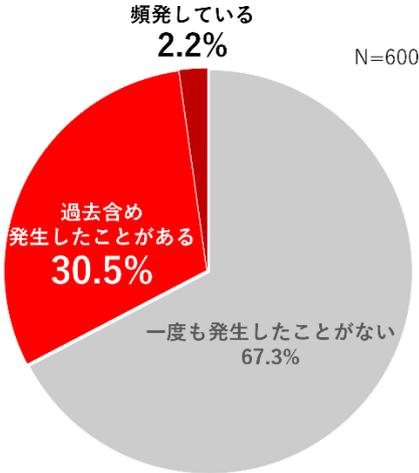
N=600※複数回答可



請求書業務における不正の発生について教えてください

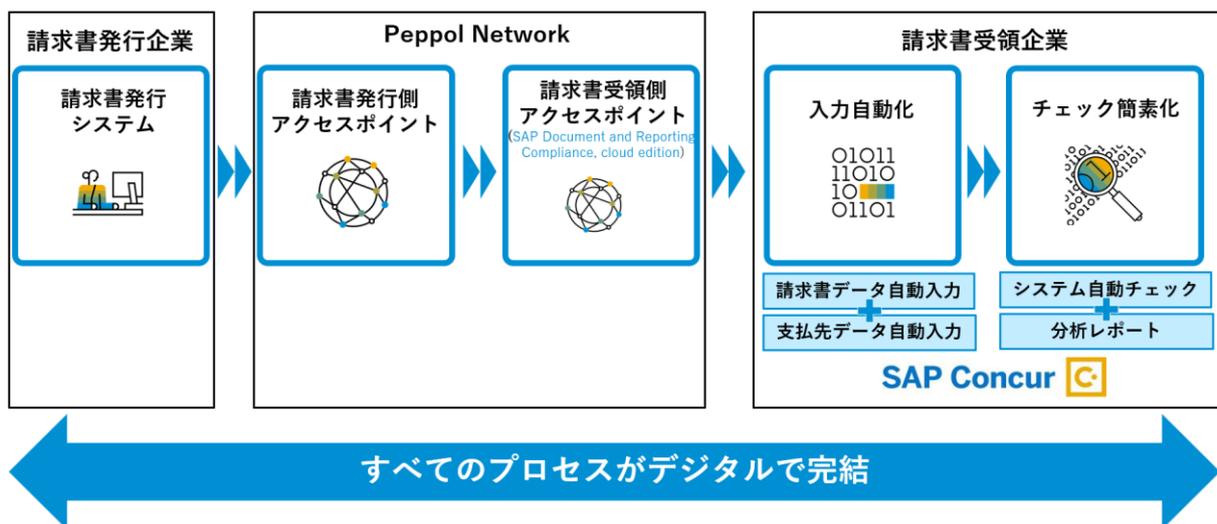
意図的な不正の発生の状況について

意図的な不正の発生可能性について



コンカーはこれらの課題を一掃し、プロセスのDXを推進することで、より高度な請求書管理へシフトするため、Concur® Invoice を活用した Peppol 準拠の電子インボイス管理を提案します。まず、Peppol Network を通じて請求書受領側アクセスポイントである SAP® Document and Reporting Compliance, cloud edition 経由で Concur Invoice へデータが自動入力されます。これにより入力作業が無くなり、ミスや改ざんの余地はありません。承認業務については Concur Invoice のシステム自動チェックや分析機能で効率化。承認されたデータはデジタル上に蓄積されるため、経費に関する分析もスムーズに行えます。このように、Peppol 準拠の電子インボイスを Concur Invoice で管理することで、全てのプロセスがデジタル上で完結し、ペーパーレス、業務効率化、ガバナンス強化、データを活用した高度な管理の全てが実現されます。

<Peppol と Concur Invoice 連携の流れ>



コンカーは、日本企業の競争力・収益力向上には、請求書管理業務のDXが急務であると考えています。コンカーはSAPグループの一員としてデジタルインボイス推進協議会（EIPA）に参画、Peppolに準拠したConcur Invoiceを提供し、日本企業の課題解決を推進していきます。今後はウェビナーやイベント等を通じたPeppolの普及拡大、パートナー企業とのPeppol領域における協業にも取り組んでいきます。

■株式会社コンカーについて

世界最大の出張・経費管理クラウドSAP Concurの日本法人で、2010年10月に設立されました。

『Concur Expense（経費精算・経費管理）』・『Concur Travel（出張管理）』・『Concur Invoice（請求書管理）』を中心に企業の間接費管理の高度化と従業員の働き方改革を支援するクラウドサービス群を提供しています。

コンカーの詳細については www.concur.co.jp をご覧ください。

■SAP Concur について

SAP® Concur®は、出張、経費、請求書管理を統合したソリューションを提供する世界有数のブランドであり、これらのプロセスの簡素化と自動化を追求しています。高い評価を得ている SAP Concur のモバイルアプリは、社員の出張をサポートし、経費を自動で入力し、請求書の承認を自動化します。AI を使いリアルタイムのデータを統合、分析することで、効率的な支出管理を行うことが可能です。SAP Concur のソリューションは、手間の掛かる作業をなくし、お客様の業務効率化に貢献、最高の状態でビジネスを進めることができるようサポートします。詳細は concur.com または [SAP Concur ブログ](#) をご覧ください。

SAP、SAP ロゴ、記載されているすべての SAP 製品およびサービス名はドイツにある SAP SE やその他世界各国における登録商標または商標です。またその他記載された会社名およびロゴ、製品名などは該当する各社の登録商標または商標です。